

2011年 NIE特集

教育に新聞を



早わかり 新聞活用



新聞を活用した学習(NIE)に関心が高まっています。
子どもたちの学力を伸ばすその方法をご紹介します。

2011年4月 読売新聞別刷り

小学校が変わる

新聞って面白い!



上野動物園のパンダ、新幹線「はやぶさ」、東京スカイツリー、任天堂3DS、石川遼選手……。新聞には、子どもたちも楽しめる記事がいっぱいだ



生きた教材

新しい学習指導要領が4月から小学校で全面実施となりました。2012年度は中学校、13年度は高校が続きます。新たな教科書とともに、様々な教科で新聞を活用する機会が大幅に増えます。

複雑化する現代社会。次代を担う子どもたちに「生き抜く力」を身につけさせることが大きな課題です。東日本大震災はまさに、必要な情報を正確に伝える重要性を教え、私たちに何をすべきか、何ができるかを問うています。

世の中の出来事を知り、それについて学び、どう考え行動するか。世界情勢から身近な出来事まで取り上げ、様々な人物が登場する新聞は、そのヒントとなる新鮮な教材と言えましょう。「新聞を教材にすると子どもたちの目の輝きが違ってくる」という声が活用経験のある先生方からよく聞かれます。



生きる力の源

新聞をよく読む子ほど読解力ひいては学力が高い—というの、先進国で構成する経済協力開発機構(OECD)の国際学習到達度調査(PISA)でわかっています。

「社会との関わりを持ち、豊かな人生を送れる人格を育むうえで、新聞活用教育に大きな役割を期待できる」—。新聞教育の萌芽(ぼうが)は、文部科学省はじめ教育関係者がそう考えた結果です。

従来、国語科なら文豪の優れた作品をどう読み、味わうかが日本的な読解であり、ひとつの正解を引き出すような授業が主流でした。でも答えはいつもひとつでしょうか。自分の知識や経験と結びつけた別の答えも導けるでしょう。物事をよく考え判断し、自ら表現する。新聞活用教育はそんな学習態度を醸成し、生きる力の源を提供してくれます。

昨春の全国学力・学習状況調査にも新聞記事を扱った出題がありました。新聞に載る記事は、実用的な日本語を使ったごく普通の文章です。そうしたものを理解し、自分なりに判断できる力が求められます。

3つの手法

新聞教育の手法は大きく3つ。①新聞の記事、写真、図などを資料として使う「新聞活用」②編集のしかたや記事の書き方に注意して読む「新聞機能学習」③取材、編集を通じて情報モラルを学ぶ「新聞作り」。こうした手法で、先生方の創意工夫による多様な授業の展開が期待されます。

先生も子どもたちも、まず新聞を手にとって眺めて見てください。そこから楽しい新聞活用学習が始まります。

(坂井伸行)



さあ、授業で使おう!



A NIEタイム

1日の始まりは新聞から。
面白そうな記事は何か?



B 小説新聞

グループで話し合い、「赤ずきん」を
新聞にまとめたよ。



C つなぐと16冊

へエーッ! 毎日20万字分の情報が届くよ。新書本1冊にもなるって。



家でもできる!

D 親子でスクラップ

テーマを決め、記事集め。
姉弟で「エコ新聞」を作っ
たよ。
お母さんもアドバイス。



A 始業前に新聞10分

■理解力を養う

始業前の10分などを使い、子どもたちに好きな本を読ませ、活字に親しんでもらう「朝読書」を導入している学校は多いでしょう。新聞も同様に慣れ親しんでもらおうと、新聞をじっくり読む「新聞タイム」や、記事の切り抜きをする「NIEタイム」を行う学校があります。

「朝刊にこんな記事がありました。心を動かされた理由は……」

閲読だけにとどまらず、自分がみんなに伝えたい記事を新聞から選び、教室でそれについて発表したりすることもあります。

社会の出来事について自分なりにどう受け止め、それについて感じたことや訴えたいことを考えます。子どもが理解力、表現力を養う場になります。

C 毎朝 岩波新書1冊分

■高い一覧性と保存性

約40ページの朝刊の全ての面を横に並べると約16メートル。活字の量は約20万字で、400字詰め原稿用紙にして約500枚分。これは岩波新書1冊分以上に匹敵します。毎朝これだけの情報が届きます。

同じ日の同じ社の朝刊でも、中身は一通りではありません。締め切り時間により早版から遅版まであり、大きな事件や事故があると、どんどん紙面が更新されていきます。

載っているのは大きなニュースばかりではありません。地域のページには、身近な話題もあります。

新聞は、1日の主な出来事を一覧して見ることができ、詳しい解説もあり、記録として手軽に運べ、保存できるなど、他メディアにない特性があります。

B 物語 整理し1枚に

■情報処理力、分析力磨く

世の中の森羅万象について分かりやすくまとめ、読者の理解が容易になるよう工夫したメディアが新聞です。そんな特性を意識し、国語で習った有名小説を、班ごとに新聞の形にまとめてみましょう。

小説のストーリーを、①発端②展開③頂点④結末——に整理します。それを踏まえて、主人公がなぜそうなったかなどを考えます。みんなでもまとめた考察や想像をコラムにします。

新聞にするには、小説を熟読し、登場人物の気持ちを深く分析する必要があります。それまで気づかなかった点や新たな読み方を発見することがあります。他者に共感したり、逆に矛盾に気づき指摘することもできるようになるでしょう。

D 親子で読んで議論

■辞書使い 調べる力つく

新聞活用は家庭でもできます。毎日届けられる新聞は知識の宝庫。きれいな写真やイラスト、広告など目にとまったものを気軽に選び、それに関連して子どもが興味を持ってそうなことを話題にしてみましょう。

世の中への子どもの関心が高まり、テーマに従って記事を切り抜いたり、スクラップ帳に貼ったりするようになればしめたもの。難しい言葉を辞書で引いたり、関連事項を調べたりするようにもなるはずです。

いきなり「新聞を読め」と言っても無理です。まず親が習慣的に新聞を読んでいる姿を示すことが大事です。家庭でも会話が減ったといわれますが、お茶の間で世の中を議論できる親子なんてステキですよ。